



## 2024年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年5月15日

上場会社名 株式会社プラスアルファ・コンサルティング 上場取引所 東  
コード番号 4071 URL <https://www.pa-consul.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三室 克哉  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役コーポレートストラテジー (氏名) 野口 祥吾 (TEL) 03(6432)0427  
本部担当  
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日—  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年9月期第2四半期の連結業績（2023年10月1日～2024年3月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年9月期第2四半期	6,465	24.4	2,166	26.7	2,168	26.7	1,471	26.4
2023年9月期第2四半期	5,197	—	1,710	—	1,711	—	1,163	—

(注) 包括利益 2024年9月期第2四半期 1,471百万円 (26.4%) 2023年9月期第2四半期 1,163百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年9月期第2四半期	34.84	34.25
2023年9月期第2四半期	28.73	27.74

(注) 当社は、2023年9月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年9月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年9月期第2四半期	13,221	10,386	78.5
2023年9月期	12,016	9,445	78.6

(参考) 自己資本 2024年9月期第2四半期 10,384百万円 2023年9月期 9,443百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年9月期	—	0.00	—	13.00	13.00
2024年9月期	—	0.00	—	—	—
2024年9月期（予想）	—	—	—	16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年9月期の連結業績予想（2023年10月1日～2024年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,800	23.5	4,800	29.3	4,800	30.5	3,250	24.0	76.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年9月期2Q	42,271,400株	2023年9月期	42,218,600株
② 期末自己株式数	2024年9月期2Q	93株	2023年9月期	93株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年9月期2Q	42,239,102株	2023年9月期2Q	40,513,498株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

あらゆる情報がデジタル化されビッグデータ化する中で、当社グループは「見える化プラットフォーム企業」のビジョンのもと、先進的なテクノロジー活用によるデータを可視化する技術を武器に、ビッグデータ活用による企業の業務効率化や意思決定を支援するサービスを展開しております。

当第2四半期連結累計期間においては、企業のデジタル化シフトや働き方の見直しに伴う業務の自動化・効率化などへの取り組みが続いており、それらを支援するソフトウェアについては高い需要が維持されております。特に当社グループが手掛けるSaaS型クラウドサービスは、インシヤルコストを抑えて短期での導入が可能であることや、システム更新などの運用負荷を軽減できることから導入へのハードルが低く、企業規模や業種を問わず投資意欲が高く、市場成長をけん引しております。

当社では、2008年5月にスタートした見える化エンジンにより高収益を確立しながら、2011年7月に立ち上げたカスタマーリングスでは安定成長を継続し、2016年9月に参入したタレントパレットは高成長を続けながら、2023年10月には新規事業となるヨリソルを立ち上げております。いずれも継続収益が大部分を占めるSaaS型サービスであり、それぞれの事業による収益が上乗せされる形で成長を継続しております。ヨリソルを除く全ての事業は黒字化しておりますが、高収益の安定事業、安定成長事業、高成長事業の組み合わせにより、全社ベースで高い成長率と利益率を同時に実現しております。

また2022年10月からは株式会社グローアップ、2024年3月からはAttack株式会社が子会社となり、タレントパレットとの連携を図りながらグループの成長に寄与しております。

新規顧客を獲得するための活動としては、マス広告やWeb広告等によるオンラインマーケティング、展示会やWebセミナー等へのイベント参加により、当社グループのサービスに関心をもつ顧客を集客し、導入を検討する企業にはサービス説明や分析手法の紹介などのデモを実施しながら、顧客の導入意欲を高めることにより受注を獲得しております。またインサイドセールスやアウトバウンドなどの手法も活用し、潜在的な顧客に対して積極的に提案を行うことで、新たな顧客層の開拓を推進しております。

以上の取り組みの結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は6,465,812千円（前年同期比24.4%増）となり、前年の高成長を継続しております。また将来の大きな市場獲得を見据えた人員採用やマーケティング投資などの積極的な成長投資を継続した結果、営業利益は2,166,899千円（前年同期比26.7%増）、経常利益は2,168,723千円（前年同期比26.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,471,401千円（前年同期比26.4%増）となっております。

セグメント別の経営成績は次の通りであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

#### <マーケティングソリューション>

当セグメントは「見える化エンジン」および「カスタマーリングス」に関わる事業により構成されております。

見える化エンジンでは、コールセンターやマーケティング部門に集まる顧客の声に加え、近年拡大してきたソーシャルメディア上での口コミを分析できるツールを提供しております。当サービスでは「顧客体験フィードバック」のコンセプトのもと、企業が顧客に提供したい顧客体験と、顧客の感じ方のギャップを分析する仕組みを提供しており、企業の商品・サービスの企画および改善を支援するソリューションとして事業展開を図っております。

主力顧客である製造業からの受注は引き続き堅調であるほか、サービス業などでも顧客の声をマーケティングに活かす取り組みは着実に浸透しつつあることや、コロナウイルス感染で抑制されていた観光・レジャー業などの活動が回復していることなどにより、見える化エンジンへの引き合いは堅調に推移しております。またツール単体としての提供だけでなく、分析ノウハウや分析結果の活用方法などをコンサルティングとして提供しつつ、顧客内の幅広い部門での活用を促す取り組みを強化した結果、受注案件の大型化が進んでいるほか、既存顧客についても活用シーンの拡大とともに顧客単価は堅調に推移しております。

カスタマーリングスでは、主にEC事業者や通信販売事業者向けに、顧客の属性、購入履歴、メール配信への反応等の情報に基づき、最適なキャンペーンを実施できる統合マーケティング・ツールを提供しております。当サービスでは「実感型デジタルマーケティング」のコンセプトのもと、データの効率的な活用にとどまらず、オンライン施策が顧客行動に与える影響を分析・見える化することで、次の施策決定を支援し、また分析した結果を直接マーケティング施策に活用できるソリューションとして事業展開を図っております。

電子商取引市場の拡大により、顧客とのデジタル接点から収集した情報をマーケティング施策に活かす取り組みが広がってきている一方で、成長市場であるデジタルマーケティング分野は新規参入も多く、競争環境は厳しくなっています。そのような環境の中で、当社グループは多様な条件設定によりリアルタイムに有望顧客を抽出・可視化することで顧客に合わせたきめ細かなマーケティング・シナリオ構築と最適アクション実施を実現できるツールとして差別化を図っております。

当サービスへの引き合いは堅調に推移しており、顧客数の増加に加え、既存顧客の利用度拡大に伴うプランアップや従量課金の増加により顧客単価は上昇傾向にあり、収益拡大に寄与しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は1,870,736千円（前年同期比9.2%増）、セグメント利益は804,311千円（前年同期比4.4%増）となりました。

#### <HRソリューション>

当セグメントは「タレントパレット」と「ヨリソル」に関わる事業、子会社の株式会社グローアップ、およびAttack株式会社により構成されております。

タレントパレットでは、企業内に散在する社員スキル、適性検査結果、職務経歴、人事評価、従業員アンケート、採用情報などの人材情報を集約して分析・見える化できるプラットフォームを提供しております。働き方改革や労働人口減を背景とした人材活用プロセス（採用、教育、配置、評価）の質的向上や効率化を目指した人材管理のソフトウェア市場は急拡大しております。当社グループでは、顧客基盤の拡大に向け、先行的に積極的な人員採用やマーケティング投資を実施しており、導入社数は急速に増加しております。

タレントパレットは、人材情報をデータで見える化し、分析的視点での人事戦略を実現する「科学的人事」のコンセプトのもと、継続的にサービスの機能強化を図っているほか、導入企業へのコンサルティングを通じて蓄積された分析ノウハウや活用方法などをサービス強化に結び付けております。足元では「ジョブ型雇用機能」「健康経営機能」「人的資本管理機能」などのサービス強化を図るほか、展示会への出展やセミナー開催などリアルな場を活用したマーケティング施策により引き合いが増加しております。新規に導入する顧客において、従業員数が多い大手企業が増えているほか、オプション機能の導入やプランアップによるアップセルを推進していることから、全体の顧客単価が上昇傾向にあり、収益拡大に寄与しております。

ヨリソルでは、教育DXと教育データの見える化を実現する統合型スクールマネジメントシステムを提供しております。志願者、在校生、卒業生、保護者、教職員など、散在している教育に関する情報を一元管理できるほか、収集したデータを豊富な分析機能により見える化することで、教育機関でのデータに基づく施策の企画から実行の支援を行っております。

2022年からトライアルの形で運営を開始し、事業化の可能性を検討してきましたが、2023年10月より改めて新規事業として展開をスタートし、既に大学、中学・高等学校、塾・専門学校など、先進的な教育機関を中心に幅広く導入が進んでおります。

株式会社グローアップが提供するサービス「キミスカ」では、企業と学生を結びつけるプラットフォームを提供しております。学生は無料でデータベースにプロフィールを登録し、利用企業は登録された学生プロフィールを閲覧しながら求人ニーズにマッチする候補者に直接アプローチする「逆求人」型のサービスを展開しております。利用企業にとっては、就職ナビ等を経由して企業に応募する「エントリー型」の応募では出会えない学生へのアプローチが可能となるほか、学生にとっては、自分の強みやスキル、価値観、経験などを評価してくれる企業からのオファーを得られるサービスとなっております。タレントパレットの導入企業がキミスカを通じて効率的に新卒学生とのマッチングが図れるための連携機能を強化しており、グループ連携を図りながら利用企業の開拓を推進しております。少子化に伴う労働力不足で採用の難易度が高まる環境下で、本サービスに対する引き合いは堅調に推移しております。

Attack株式会社では、企業向けに採用コンサルティング事業を展開しており、主に採用支援サービスである「TARGET」を運営しております。TARGETでは、顧客企業の採用活動に関して「プロジェクトマネジメント」「候補者日程調整」「ダイレクトリクルーティング支援」「採用広報」など、幅広い業務のアウトソースを請け負うプロジェクトマネジメント型の採用支援サービスを提供しております。TARGETとタレントパレットの連携を通じて、人事の採用領域においてサービス範囲を拡大するとともに、相互サービスの連携により付加価値向上を図るほか、営業活動の連携等を推進し、更なる成長力の向上を図りたく考えております。2024年3月31日をみなし取得日としてAttack社は当社の連結子会社となり、2024年9月期第2四半期については、貸借対照表のみを連結しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は4,595,075千円（前年同期比31.9%増）、セグメント利益は1,911,820千円（前年同期比36.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は10,758,607千円となり、前連結会計年度末に比べ1,056,524千円増加いたしました。

主な内訳は、現金及び預金が9,044,529千円、受取手形及び売掛金が1,413,124千円であります。

また、固定資産は2,463,124千円となりました。主な内訳は、有形固定資産が158,426千円、M&Aにより発生したのれん1,191,153千円を含めた無形固定資産が1,485,330千円、投資その他の資産が819,367千円であります。

以上の結果、資産合計は13,221,732千円となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は2,739,433千円となり、前連結会計年度末に比べ275,265千円増加いたしました。

主な内訳は、未払法人税等が779,472千円、賞与引当金が219,358千円、買掛金が203,785千円であります。

また、固定負債は繰延税金負債であり、95,523千円となりました。

以上の結果、負債合計は2,834,957千円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は10,386,774千円となり、前連結会計年度末に比べ941,040千円増加いたしました。

主な内訳は、資本金が456,958千円、資本剰余金が446,958千円、利益剰余金が9,481,265千円であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、9,044,529千円と前連結会計年度末と比べ766,526千円の増加となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は1,533,445千円（前年同期は1,368,419千円の獲得）となりました。これは主に、法人税等の支払額602,447千円による資金の減少があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上2,168,723千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は239,750千円（前年同期は626,239千円の使用）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出99,999千円、長期貸付けによる支出50,000千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出35,999千円、敷金及び保証金の差入による支出37,074千円による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は527,168千円（前年同期は96,218千円の使用）となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入18,480千円があったものの、配当金の支払額545,648千円による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月期の連結業績予想に関しましては、2023年11月13日に公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,278,003	9,044,529
受取手形及び売掛金	1,231,654	1,413,124
仕掛品	156	729
その他	194,131	300,257
貸倒引当金	△1,862	△32
流動資産合計	9,702,083	10,758,607
固定資産		
有形固定資産	161,463	158,426
無形固定資産		
のれん	1,167,485	1,191,153
その他	324,700	294,176
無形固定資産合計	1,492,186	1,485,330
投資その他の資産	660,307	819,367
固定資産合計	2,313,956	2,463,124
資産合計	12,016,040	13,221,732

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	170,306	203,785
未払法人税等	671,838	779,472
賞与引当金	204,823	219,358
その他	1,417,200	1,536,817
流動負債合計	2,464,168	2,739,433
固定負債		
繰延税金負債	106,137	95,523
固定負債合計	106,137	95,523
負債合計	2,570,306	2,834,957
純資産の部		
株主資本		
資本金	447,718	456,958
資本剰余金	437,718	446,958
利益剰余金	8,558,704	9,481,265
自己株式	△226	△226
株主資本合計	9,443,915	10,384,955
新株予約権	1,818	1,818
純資産合計	9,445,733	10,386,774
負債純資産合計	12,016,040	13,221,732



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
売上高	5,197,677	6,465,812
売上原価	1,362,199	1,708,674
売上総利益	3,835,477	4,757,138
販売費及び一般管理費	2,125,042	2,590,239
営業利益	1,710,435	2,166,899
営業外収益		
受取利息	24	69
有価証券利息	1,570	1,570
その他	247	185
営業外収益合計	1,841	1,824
営業外費用		
支払利息	38	—
支払手数料	376	—
その他	84	—
営業外費用合計	499	—
経常利益	1,711,777	2,168,723
特別損失		
段階取得に係る差損	36,663	—
特別損失合計	36,663	—
税金等調整前四半期純利益	1,675,114	2,168,723
法人税、住民税及び事業税	546,198	735,506
法人税等調整額	△35,079	△38,184
法人税等合計	511,119	697,322
四半期純利益	1,163,994	1,471,401
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,163,994	1,471,401

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益	1,163,994	1,471,401
四半期包括利益	1,163,994	1,471,401
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,163,994	1,471,401
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2024年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,675,114	2,168,723
減価償却費	89,342	55,636
のれん償却額	64,860	64,860
段階取得に係る差損益 (△は益)	36,663	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△130	△1,829
賞与引当金の増減額 (△は減少)	33,501	14,534
受取利息及び受取配当金	△1,594	△1,639
支払利息	38	—
固定資産除却損	84	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△13,004	△170,125
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,880	△572
仕入債務の増減額 (△は減少)	31,578	33,478
前払費用の増減額 (△は増加)	△92,469	△105,606
未払金の増減額 (△は減少)	39,262	154,232
未払費用の増減額 (△は減少)	9,156	8,621
未払消費税等の増減額 (△は減少)	3,249	△96,260
契約負債の増減額 (△は減少)	3,545	50,851
その他	44,452	△40,651
小計	1,921,769	2,134,253
利息及び配当金の受取額	1,594	1,639
利息の支払額	△38	—
法人税等の支払額	△554,906	△602,447
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,368,419	1,533,445
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△14,150	△15,887
無形固定資産の取得による支出	—	△2,590
投資有価証券の取得による支出	—	△99,999
長期貸付けによる支出	—	△50,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△612,109	△35,999
敷金及び保証金の回収による収入	20	1,800
敷金及び保証金の差入による支出	—	△37,074
投資活動によるキャッシュ・フロー	△626,239	△239,750
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△178,085	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	442,022	18,480
配当金の支払額	△360,155	△545,648
財務活動によるキャッシュ・フロー	△96,218	△527,168
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	645,962	766,526
現金及び現金同等物の期首残高	5,478,619	8,278,003
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,124,581	9,044,529

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング ソリューション	HRソリューション	計		
売上高					
一時点で移転される財 又はサービス	63,401	506,269	569,670	—	569,670
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	1,650,372	2,977,633	4,628,006	—	4,628,006
顧客との契約から生じ る収益	1,713,773	3,483,903	5,197,677	—	5,197,677
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,713,773	3,483,903	5,197,677	—	5,197,677
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,713,773	3,483,903	5,197,677	—	5,197,677
セグメント利益	770,601	1,397,146	2,167,747	△457,312	1,710,435

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「HRソリューション」セグメントにおいて、株式会社グローアップの株式を取得し連結子会社としたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において、1,297,206千円であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自 2023年10月1日 至 2024年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	マーケティング ソリューション	HRソリューション	計		
売上高					
一時点で移転される財 又はサービス	66,591	609,577	676,168	-	676,168
一定の期間にわたり移 転される財又はサービ ス	1,804,145	3,985,498	5,789,644	-	5,789,644
顧客との契約から生じ る収益	1,870,736	4,595,075	6,465,812	-	6,465,812
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,870,736	4,595,075	6,465,812	-	6,465,812
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,870,736	4,595,075	6,465,812	-	6,465,812
セグメント利益	804,311	1,911,820	2,716,131	△549,232	2,166,899

(注) 1. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用の金額であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「HRソリューション」セグメントにおいて、Attack株式会社の株式を取得し連結子会社としたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において、88,527千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、マーケティング関連領域のソリューションを提供する2つの事業において、相互サービスの連携や新サービス開発などを迅速に展開し、新たな付加価値を創造していくことを目的として、「見える化エンジン事業部」、「カスタマーリングス事業部」を統合し「マーケティングソリューション本部」としております。また、トライアル事業として展開していたヨリソルについて一定の需要獲得に目途がついたことから「ヨリソル事業部」を新設し、「タレントパレット事業部」と共に「HRソリューション本部」としております。

上記の経営体制の変更に伴い、報告セグメントを前連結会計年度において「見える化エンジン事業」、「カスタマーリングス事業」、「タレントパレット事業」の3区分としていたものを、「マーケティングソリューション」、「HRソリューション」の2区分に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを記載しております。